

香川県三豊市（国内 33 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 11 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は山の中腹に位置し、周辺を雑木林に囲まれていた。また、農場に隣接した調整池があり、調査時にはカモが 2 羽確認された。
- ② 農場内には 2 階建てのセミウィンドウレス鶏舎が 3 棟あり、1 階及び 2 階で 2 鶏舎とする計 6 鶏舎であった。
- ③ 発生鶏舎は 2 階に位置しており、1 階部分は 11 月末にオールアウトしたばかりで空舎であった。発生鶏舎は背中合わせの直立 4 段ケージが 4 列ある構造となっていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時 249 日齢）の 12 月 8 日以前の過去 2 週間の 1 日当たりの死亡数は 5 羽未満で推移していたところ、9 日朝の見回り時に 7 羽の死亡を確認し、同日午後の死亡鶏点検で追加で 8 羽の死亡を確認したとのこと。
- ② 10 日朝の見回り時に 31 羽の死亡を確認したため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。なお、死亡鶏は発生鶏舎の入口から見て 3 列目及び 4 列目の通路側の中央付近に多く確認されたとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、発生鶏舎において産卵数の低下や異常卵、餌食いの低下等の異状は認められなかったとのこと。
- ④ 調査時（12 月 11 日午後）は、発生鶏舎の入口から見て奥の列において死亡鶏や沈鬱を呈する鶏が確認されたが、発生鶏舎以外の鶏舎では異状は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では、作業従事者として農場主 1 名、従業員 4 名及び外国人技能実習生 2 名の計 7 名が勤務していた。
- ② 飼養管理を行っているのは農場主、従業員 1 名及び実習生 2 名で、担当鶏舎は決まっていた。残りの 3 名は集卵作業や事務作業に従事し、鶏舎に立ち入ることはなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、車両が農場に入る際には、農場に向かう道に設置された 2 か所の石灰帯を通行し、農場入口に設置されている動力噴霧器で車両消毒を行っていたとのこと。衛生管理区域の一部境界にはネット（野生動物対策用）が設置されていた。
- ② 飼養管理者によると、従業員は出勤後、衛生管理区域専用作業着・長靴に交換し、手指消毒を実施していたとのこと。また、来場者用には、作業着とブーツカバーを準備しており、着用と手指消毒を求めているとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、鶏舎に入る際は、各鶏舎の入口で鶏舎専用作業着・長靴に交換し、手指消毒、踏込み消毒（逆性石けん、週 1～2 回交換）を実施していたとのこと。
- ④ 飼養管理者によると、各鶏舎周辺には消石灰を週 1 回程度散布し、消毒を行っていたとのこと。
- ⑤ 発生鶏舎には、鶏舎入口側妻面及び平面の入口近くの一部にクーリングパッドがあり、鶏舎奥側妻面には換気扇付きの排気口があった。また、非常用の開口部には 2 cm 幅の亀甲金網とその内側にカーテンが取り付けられていた。

- ⑥ 飼養管理者によると、鶏舎ごとのオールイン・オールアウトを実施しており、オールアウト後は鶏舎内の清掃をエアーで行い、オールイン直前には2種類の消毒液と1種類の殺虫剤を用いて、それぞれ1回ずつ、計3回消毒を実施していたとのこと。直近の出荷は11月19～27日に実施しており、発生鶏舎の1階部分の鶏舎であった。
- ⑦ 飼養管理者によると、死亡鶏は毎朝の見回り時に回収するとともに、月曜日と金曜日には技能実習生による死亡鶏点検を行っていたとのこと。死亡鶏は鶏舎内に一時的に保管し、農場内にある焼却炉で週2回焼却していたとのこと。焼却後の灰は鶏糞に混ぜていたとのこと。
- ⑧ 発生鶏舎の集卵ベルトは垂直に降下して1階を通過後、半地下にある集卵ベルトから隣接する集卵室に繋がっており、屋内のみを走行していたが、過去にネコの侵入があったが対策実施後は侵入はなかったとのこと。
- ⑨ 除糞ベルトは、毎日1時間に1回程度稼働し、鶏糞は開口部から階下に落下後にベルトで鶏舎に隣接する鶏糞乾燥場に繋がっていた。鶏舎内開口部は1階及び2階ともに稼働時以外は蓋で閉鎖していたとのこと。鶏糞は堆肥舎に運搬されて堆肥化された後、従業員が自社トラックで業者に搬出していたとのこと。
- ⑩ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通して自動で給餌される構造になっていた。
- ⑪ 飼養鶏への給与水は水道水を使用しており、鶏舎内のラインを通じて自動給水を行っていた。
- ⑫ 当該農場は、年に3回大雛を導入しているが、8月以降の導入はなかった。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、頻度は多くないが、農場周辺においてイノシシ、タヌキ等の野生動物やカラスを目撃することはあるとのこと。調査時、堆肥舎外側にイノシシの掘り返し跡を認めた。
- ② 鶏舎内でネズミを時折見かけるとのこと。ネズミ対策として、殺鼠剤や罠の設置をしているとのこと。

(以上)